



里海学びの講座①

「森と海のつながり」開催しました！



- 日時 平成30年5月18日(金) 18:30~20:30
- 会場 香川大学研究交流棟6F 第一講義室
- 講師 増田 拓朗 氏 (香川大学名誉教授)

5月18日に、香川大学研究交流棟第一講義室にて、里海学びの講座①を開催しました。

はじめに、香川県環境管理課の職員から、「里海づくり概論」と題して、スライドを用いて解説が行われ、里海とは何か、かがわの里海が抱える問題などについて解説がありました。

つづいて、香川大学名誉教授である増田拓朗氏により、「森と海のつながり」をテーマに講義が行なわれました。

森と海はそれぞれ単独で成り立っているように見えますが、実はお互いが影響しあって存在しているという話がありました。海岸の木々を伐採すると、魚が寄り付かなくなり、魚介類の水揚げが減少するということが昔の人々は経験則から学んでいたという事例が示されました。

次に科学的な側面から解説がありました。植物に必要な栄養は窒素やリンなどですが、これは植物プランクトンや海草・海藻といった海の物質生産の起点となる生物にも必須なもので、海ではこれらの必要な栄養素は、陸からの流入に依存しているところが大きいという解説がありました。近年のノリの色落ちの原因の一つには窒素やリンなどの栄養塩の不足があると説明がありました。

最後に、県内の山間部を例に、マツ林や広葉樹林、スギ、ヒノキ人工林など、どの森が良くてどの森が悪いということではなく、それぞれの森に応じた目標と、目標達成のための維持管理が森づくりには大切、というお話がありました。

適切な森づくりによって、豊かで健全な海になるのだと示され、改めて山・川・里(まち)・海という、里海づくりの「つながり」の大切さを認識する講義でした。